宮本上田敏全集 第五

定本

上田敏全集　第五卷

思想問題
獨語と對話
現代の藝術

編集委員
矢野峰人
嘉治隆一
島田謹二
松村緑
森亮
安田保雄
剣持武彦
佐々木滿子

昭和五十三年九月二十五日　發行
定本　上田敏全集　第五巻
定價　一四〇〇〇圓
責任編集　上田敏全集刊行會
（代表）　矢野峰人
發行者　柴崎芳夫
發行所　株式會社　教育出版センター
東京都豊島区北大塚三―二九―二
電話〇三―九一七―八九三〇（代）
限定五〇〇部の内
Ueda Bin Zensyû Kankôkai © 3390―0005―1475

上田敏全集　第五巻　目次

思想問題
獨語と對話
現代の藝術
解說・編注

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com

思想問題

序……三

思想界と其問題……五

戰爭と文藝……一九

佛蘭西思想……三一

春と人……四六

海と文藝と生物學……五三

貴族主義と平民主義……六七

運不運……七〇

現代の英國……八三

學問と流行……九二

新美術……九八

美術と工藝……一〇二

舊思想新思想……一〇九

綜合藝術……一三〇
新婦人……一四〇
學說の價値……一五三
宗教と文藝……一五八
教育の普及……一六四
道德の本源……一七二
新道德說……一八五
正義の不可思議（マアテルリンク）……二〇七

獨語と對話

序……二五七
律……二五九
創作……二六一
舞踏……二六四

劇……二六七
人生派……二六九
小説……二七九
文化……二九一
自由詩……三〇三
本流と逆流……三一七
美術と人生……三三〇
現代の美術……三四七
舞踊の復活……三五六
佛蘭西と獨逸……三六一
戰亂と正義……三七四
象牙の塔……三八一
思想の戰爭……三八七

現代の藝術……三九九

第一回　現代の精神……四〇一

第二回　現代生活の基調……四一五
第三回　現代の諸問題……四二九
第四回　現代の諸問題と藝術……四三四
第五回　現代の藝術……四四九
第六回　現代の文學……四五九
第七回　自然派の小説……四六七
第八回　自然派以後の文學……四七三
第九回　現代の繪畫……四八八
第十回　印象派の繪画……四九一
第十一回　印象派の繪画（續）……四九四
第十二回　現代の音樂……五〇九

解說……矢野峰人…五一五
編注……安田保雄…五一七

思想問題

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com

序

善に生きよ、美に生きよ、而して全體に生きよと近代の一大思想家は教へてゐる。全體に生きよとは、いかにも意味深長な語である。常に專ら文藝を論じ來つた著者が今、思想問題といふ總名の下に、藝術以外の所論を公にするのは、この「全體」といふことを思ふからである。藝術は畢竟「人生のための藝術」であらねばならぬ。

本書收むる所の諸篇の中、關西の大新聞に掲載され、又諸所の學會に講演したものもある。今其許諾を得て、此書に編入することを得たのは、著者の感謝する所である。

大正二年五月

上田敏

思想界と其問題

今日の日本には思想上の問題を論議する人の數が敢て少いとは言へぬ。道德に關する言說、宗教に就いての研究其の他社會百般の事柄に對する批評や劃策は、月々定期刊行物の上で、吾等の眼に觸れる。書籍の出版、學校の設備等も到底昔日の比では無い。唯玆に些か遺憾とする所は、かゝる表面上の盛觀あるにも拘らず、實際上、言論の無勢力である事だ。言論の無勢力とは此頃思想界の一角に唱へられた言葉であつて、多少憤慨の意を含んだものらしい。實に今の思想界には眞理を追求しようといふ熱心よりも、前以て侵す可からず、動かす可からずと假定した成心を確めようとする願望が多く働いてゐる。心を空うして物の理を辨へることはあまり流行しない。尤も、予の信ずる所に依れば、外面から冷靜の觀察を下して事物の關係を辨知するより、熱心に直接に生活そのものに身を投じて內部から人生の秘密を會得する方が尚良いと思ふが、とかく今の學者は實際の生活に接觸する事を避けて精神上の貧血に陷り易い傾向を帶びてゐる。それ故道德上

の議論にも其の根本まで遡つたのは少く、おほむね風教の末を喋々するか、或は所謂常識を楯にして、陽に青年の急進を戒めつゝ、陰に思想の現狀維持を說いたり、また甚だしきは既に亡んだ過去の思想を宛もまだ溌剌として生氣あるやうに強辯するものもある。さうでない人は又反對に、活世界と直接の關係が薄い閑事業に隱れて、思想界の狂瀾を乘切らうとする勇氣が無く、無事安穩の避難處を守るに餘念無い。考證の學は、かういふ人たちに取つて、極めて都合の好い隱家である。この頃の史學界、宗教界に時勢の眞相を明かにしたり、精神上の運動を喚起する議論が少く、やゝもすれば瑣細な史料を蒐集し、宗教心と關係の薄い考證を羅列する事で能事畢れりとする弊が見えるやうなのは殘念だ。

道德の議論が一見盛なやうで一向效果が見えず、宗教の研究が持囃されながら、眞に新時代の人を動かす可き活動の起らないのは、前述の原因に歸す可きものと思ふが、唯此間に介してやゝ人意を强うするに足るものは、近年文藝界、美術界に於ける一種の動搖であらう。明治の風俗習慣は藝術を以て社會の一大事とは思はなかつた、從つて今も社會の大部分はこれに對して頗る無頓着な態度をとつてゐるが、此抵抗が少い方面に向つて青年の心が他の方面では得られぬ自由な活動を試みるやうになつてから、眞に人を動かす可き思想が往々にして稍蕪雜な文章の下からも發散して、終に今迄偸安姑息の裡に晏如としてゐた舊時代の人をも駭かし、率然として文藝の弊害を絶叫せしめるに至つた。而も今に文藝の何たるを研究せず、新藝術勃興の原因いづこにあるを窺ひ知らずして周章狼狽のあまり、日本に所謂「自然主義」の「害毒」を、無意味に人眞似に傳唱してゐる。一體自然主義とは何に關して言つたものだらう。いづれは藝術上の一主義一流派である。狩野派や、四條流とか、古流、池の坊とかいふやうなもので、何も直接に亂倫不德の實行を慫慂するの

では無い。尤も世上百般の事物一として、孤立するものは無く、殊に文藝は、精神活動の他方面と密接の關係あるもの故、藝術に自然主義を唱へる人は、在來の流派と異つた一種の世界觀を無意識に或は有意識に有つてゐる。つまりは人心が一轉して藝術にも新機軸を要求するに至つたのだ。唯文藝は色彩、形似、音響の力を通じて人心に訴へる美術音樂等とは異ひ、言語を以て發表の塡充物とし、人生その物を直接に讀者の胸中に再現させるから、平生此の方面に緣の少い大衆にも了解され易く、誰も一廉の批評眼を以て之に臨むため、折角平生から整然と片附けて置いた人々相應の世界觀が崩された場合には、忌々しさに反感も起る、侮蔑の念も萌す、時としては又「あゝ暫く。さやうの事をば船中にて申さぬ事にて候」といふやうな感が生じて、空恐ろしくなる。これが文藝の動ともすれば迫害を蒙る源になるので、例へば日本では裸體畫でさへ無ければ、自然主義或は其の後の新精神を發揮した美術品が、毫も怪しまれずに官設展覽會に陳列される所以にもなる。

文壇の人の知る如く、予は始めより日本の所謂自然主義には贊成した事が無い、又強ひて反對した事も無い。これは歐洲藝術界に起れる千八百七十年頃より十四五年間全盛であつた彼の一主張一流派とは趣を異にしたもので、實は內容頗る雜然たる一の動搖であつた。それ故に其派の論客は各說を異にして、或者は狹くこれを客觀描寫、美醜無差別、寫實迫眞等藝術特有の問題に限り、或者は廣くこれを人生に對する新態度として思想界に於ける從來の定說に疑義を挿むものとするもある。要するに他の方面に於て自由なる思想の活動を試みる習慣或は知識或は興味の無い新人が、一般社會のあまり意に介さなかつた文學に於て其の內心の動搖を發表したものだらう。言ひ換へれば日本現代の社會と教育とが生んだ自然の產物であつて、其原因を

探ると意外な事を發見するかも知れない。故に予は自然主義の議論が文壇に盛であつた時、賛否兩派の主張や趣味を傍觀して非常に興味を覺えた。其の後文壇で全く此議論の絶えた今日、他の形を取つて、新時代が藝術と人生とを論議するも亦面白く思ふ。而して之を文壇以外の論者、例へば道德論者教育家等の言と比較して、互に他國人の相語るやうな現象を發見するので、明治の世はかく迄も造船術に所謂「阻水區劃」が成立つてゐるのかと驚く。

明治維新の大變動は、表面に政治經濟の驚く可き變革となつて見えるが國民の精神上極めて重大な結果を齎す可き急激な變化であつた。あゝいふ急激な變化のあつた時は直に十年十五年では結果が見えない。制度の方が先に革つて、精神上まるで新しい現象の起るのは必度稍後れる。風俗は更り表面の思想まで幾分か變化しても、あの變動前に人となつた者が生存して、それが社會の上流を占めてゐる間はなか〳〵從來の惰力が盡きるものでは無いが、明治も始終過渡の時代と言つてゐるうち、いつか三十年四十年を經て今日は全く維新後の社會に育ち、その教育に仕込まれた青年の漸く自覺しかゝつた今日、此間の變遷が善かれ、惡かれ新時代を形造つたのだ。一體過去の歷史に對して、「彼であつたら、斯もなつたらう、或は斯でもなかつたらう」と想像するのは無益の繰言であるから予は濟んだ事に就て是非の評は下さぬ。唯事實だけを言ひたいが、何しろ維新このかた日本從來の傳統を斷絶せしめた事が終に餘蘊無く今日の青年男女に於て其結果を現してゐると思ふ。予の見る所を以てすれば、男子にはさすがまだ多少の粉飾があつて、歷史が養ふ愛惜の念もあるが、功利の教育に人となつた新時代の女子には全く舊日本に對する知識も追憶も無い。今のうち生氣ある思想を鼓吹して維新の大業を意味あるものとするのは眞に國家を思ふ者の義務である。

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com